



全国榎サミット与謝野大会において
あいさつする栗市長

ごあいさつ

平成 28 年 5 月 6 日

木々の新緑が鮮やかな季節となりました。若い芽がどんどん伸びて、生命の輝きが感じられます。昨年より1か月早め、今月から市役所ではクールビズ期間に入りました。快適に仕事をするためだけでなく、地球温暖化のためにも小さなことから一人ひとりが取り組む姿勢が大切なのではないかと思います。

先月14日に熊本地震が発生しました。東日本大震災から5年1か月経過し、復興もままならない状態のなか、またもやこのような大きな自然災害に見舞われてしまいました。自然の驚異をまざまざと見せつけられた思いがします。犠牲となられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された多くの方々が一日も早く、通常の生活に戻れることを願っております。

現在、市や社会福祉協議会では義援金の受付をしております。関係機関から給水やライフラインの復旧、被災された方の心のケアや健康管理についてどれだけの支援ができるかといった調査がきております。具体的な要請があり次第、早急に対応する予定です。

幸いなことに野々市市においてはこれまで大きな自然災害が起こってはおりません。しかしながら、本市の東側には森本富樫断層帯もあり、その可能性はゼロではありません。最小限の被害にとどめ、通常の生活に戻れるよう市の防災計画を立てております。また、防災、減災のため年一回の防災訓練も行っていますが、地域によってはその前後に町内会単位で独自で防災について取り組まれているところもあります。市民の皆さんの防災意識が高く、市といたしましてもこのような取り組みに対して積極的に支援をしたいと思っております。まずは自分の安全、家族の安否、そして隣近所、地域での安全確保が大切です。

京都府与謝野町で開催された第26回全国榎サミットに総勢74名で参加しました。来年3月18日19日は「花と緑のいち榎まつり」と同時に野々市市で全国榎サミットを開催いたします。平成8年に野々市町、珠洲市で記念すべき全国榎サミット協議会設立第1回総会が開かれたことがここまで繋がっており、本市にとっては大変思い入れがあります。

落語の祖といわれる安楽庵策伝が「百榎集」のなかで、榎には十の徳がある「榎十徳」ということを記しています。そのことを市の将来都市像に見据えて、「人の和で榎十徳生きるまち」と榎をイメージしたまちづくりを進めています。一、と次期開催地としてピーアールしてきました。あまりにも期待感を醸し出し過ぎたかなと思いましたが、新幹線も通り交通の利便性も高まったことで、多くの方々に野々市にお越しいただきたいと思っております。その成功に向け、確実な準備を進めて参ります。市民の皆さんのご理解ご協力のほどよろしく願いいたします。